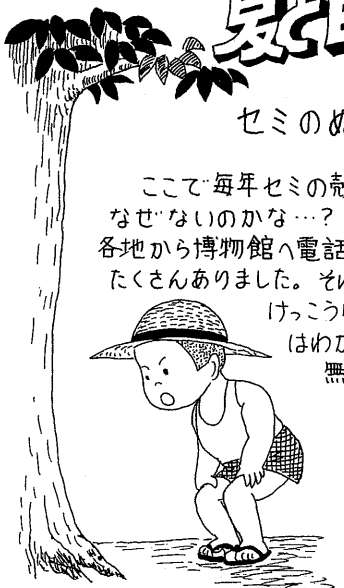
夏と自然と博物館

はくぶつかんだより 1992.8 No.21

セミのぬけ殻がない？

ここで毎年セミの殻が見られたのに……
なぜないのかな…？ 不思議です。
各地から博物館へ電話でこのような質問がたくさんありました。それでも鳳来寺山ではセミはけっこう鳴いています。その原因はわかりませんが、土の中で無事であることを祈ってあげましょう。



暑かった夏

この地方で最高に暑かった日は8月1日です。
鳳来寺山表参道に植えられたホソバシャクナゲは干ばつで枯死寸前といったありさまです。
この暑さで樹勢が弱ったことは確かです。博物館では夕方に水をかけて助けてやりました。こんなことは初めてです。

講堂の中のにおい

毎年、東海市の各小学校5年生が見学にやってきます。ほとんどの学校が館長の講話を聞きました。教材にクサギ（クマツヅラ科）を使って右手でつかんで強くふったとき「プ〜ン プ〜ン」とにおいを発散します。
こんなにおいの体験は東海市の5年生だけです。
「実物こそ師」で、鳳来寺山ろくには自然の面白く不思議な教材がいっぱいありますので少しでも教材として生かすように努力しています。

生態と食害問題

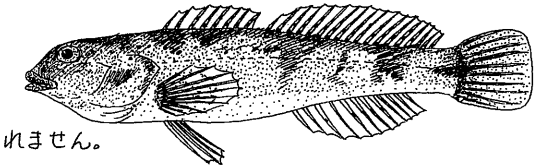
カモシカの行方を考える

平成4年7月26日（日）飯田市美術博物館講堂で、カモシカの生態と食害問題というテーマでシンポジウムが開かれました。
林業に食害が問題になって20年になりますが、少しも解決していません。
岐阜長野を中心に1万頭余り射殺しています。
これでは林業にとってもカモシカにとっても不幸なことです。
岸本良輔（美術博物館学芸員）さんを中心に小坂町森林組合長、上郷町林務課長、農林省森林総合研究所の専門家が「どうしたらよいか」話されました。
館長も出席。「林業の将来と野生動物の保護のむつかしさ」を痛感しました。

カジカの発見

— 鳳来町長篠橋付近 —

この地方で絶滅寸前のカジカ（カジカ科）を平成4年7月21日、鳳来町長篠の森下健一郎さんが捕獲しました。
減少の理由は川の汚染です。
この一匹の発見は清流であったことの最後の証明になるかもしれません。



マムシに咬まれた犬

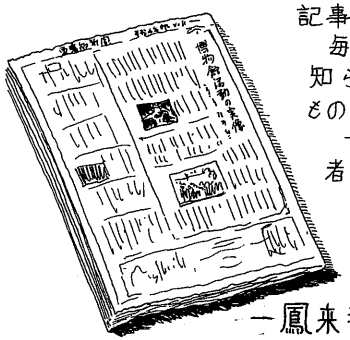
平成4年8月21日の夕方のことです。
博物館の近所の飼犬が散歩中に咬まれました。
獣医さんの治療のおかげで助かりましたが今年はマムシの多い年だと言われています。人も犬も猫も気をつけましょう。

ヤマユリ異変

（平成4年7月30日）
鳳来町皿谷地内の県道沿いにみごとなヤマユリの群落がありました。それが去年みたときと今年ではずいぶんようすがちがいます。
サルが食べたこと、ウイルスにかかってしまったからです。
サルは追い払うことができますが、ウイルスに一度かかったものは、元の健康状態に戻りません。
それが心配です。

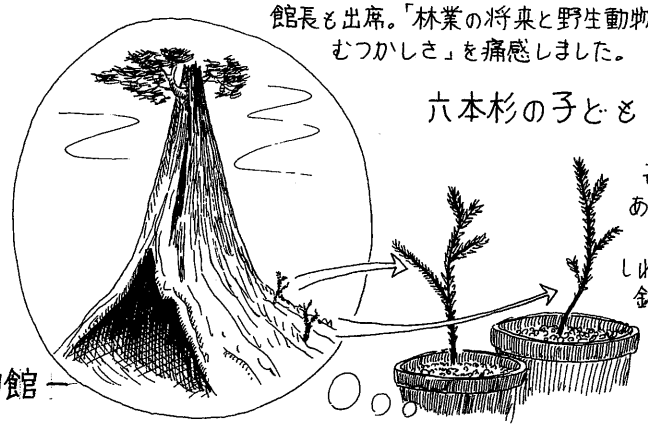
博物館活動の実像 — 東愛知新聞

平成4年8月7日の「夏休み博物館活動の実像」は館長の執筆記事でした。
毎日の活動はみんなに知られる部分が少ないものです。
一年のうちで一番入館者の多い夏休みこそ「よい種をまく」機会と思います。

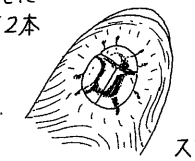


六本杉の子ども

鳳来寺山の六本杉が伐採されたとき、根元に長さ5cmくらいの幼苗が2本あることに気づきました。
これは六本杉の子供かもしれません？ 只今博物館で鉢植にして大切に保存しています。



黄金の虫（大きさ 7mm）



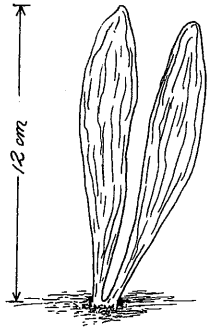
スキバジンガサハムシの体は黄金色に光っています。初めて見た人は大変おどろくのが普通です。
東陽小学校4年、菅沼典夫君が見つけて博物館にもってきました。平成4年8月16日のことです。

— 鳳来寺山自然科学博物館 —

秋の自然と博物館

はくぶつかんだより 1992・11 No22

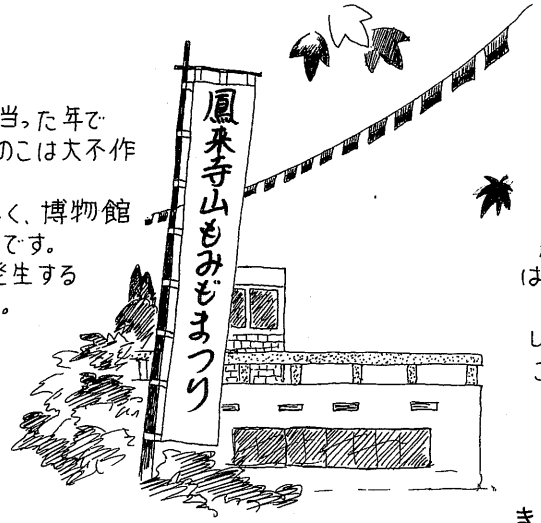
「里豊作、山不作」とは…



スリコギタケ
シロソウメンタケ科

この諺(ことわざ)がぴったり当った年で稲作は大豊作、きのこは大不作でした。
このきのこは珍しく、博物館の記録では初めてです。
「山不作」の年に発生するきのこかもしれません。

（鳳来町山中で上田武さん採集、10月8日）



鳳来寺山の紅葉を楽しむ

紅葉、黄葉、褐葉と色とりどりの紅葉はみごとです。
今年10月15日(日)は秋の紅葉を楽しむ会がおこなわれます。午前中に山を歩いて紅葉の美しさを満喫します。午後は楽しく紅葉カードをつくります。
こんな紅葉の自然に囲まれて楽しい学習会をおこなうのはここだけです。
博物館の窓口でハナノキのカードを秋の記念に配っています。

カモシカの行動

（平成4年9月17日）

鳳来町海老、川売地内の往還久保林道でカモシカを調べました。
その結果、餌として食べている植物の種類、原因は不明ですが死んでしまうものもあることがわかりました。
たまたま白骨を発見…ていねいに全部ひろってかえりました。
カモシカの死を供養してやりたいと思います。

町と村のきのこ交流

（平成4年10月14日）

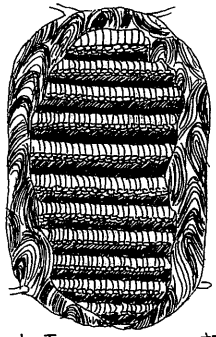
鳳来町只持、荷互名（会長：加藤泰平）で町と村のきのこ交流会が行なわれました。
参加者は女性ばかりです。
町と村の女の人たちが集まり、いろいろなことを知る機会となりすばらしい行事です。この日は雨で、カサをさしてきのこ狩りにいきました。

きのこ展（10月10日～12日）

山不作で自然のきのこが少ない年でしたが、それでもきのこ見学者の方はおおぜいで大変にぎわいました。
ズキンタケ、スリコギタケ、キショウゲンジなどは、今年初めて展示できたきのこです。

なお、きのこ展のようすはCBCラジオ、中京テレビでも放送されました。

クロスズメバチ（別名ヘボ）



ハチサミット

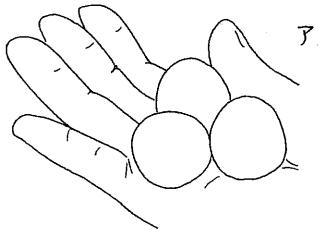
（平成4年11月3日、設楽町）

このハチは土の中で巣房を作り、生活します。雨の少ない今年の夏は、またとない生活環境でした。
このハチは昔も今も人に取られて成虫、幼虫ともに食べられてしまいます。味はとても美味ですから、巣を探されて取られてしまいます。
設楽町で習性を利用して木箱で飼い、飼育技術を競う「ハチサミット」が毎年開かれます。
食肉性で害虫をとってくれる恩恵を忘れているのではないか…？
そのことに気づいてほしいと思いました。
（優勝した巣：2,840g、11段でした。）

ゲストに館長が招かれ、「自然講話」をしました。

アオバズクの卵

（平成4年10月16日）



アオバズクはフクロウ科の鳥で、初夏の夜「ホー、ホー」と二声で鳴きます。
卵を樹洞（木のあな）に産む習性ですが適当な場所が少なく、アオバズクは困っているようです。
そこで新城剝製の換気扇に産みました。残念なことにヒナはふ化せず卵のまま発見されました。（新城剝製寄贈）

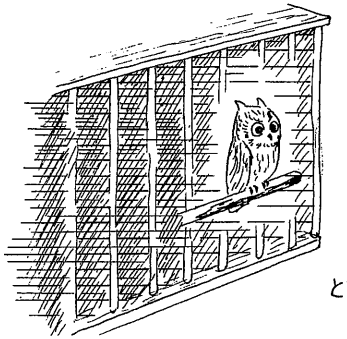
鳳来寺山自然科学博物館

冬の自然

はくぶつかんだより 1993.1 No.23

1993 1

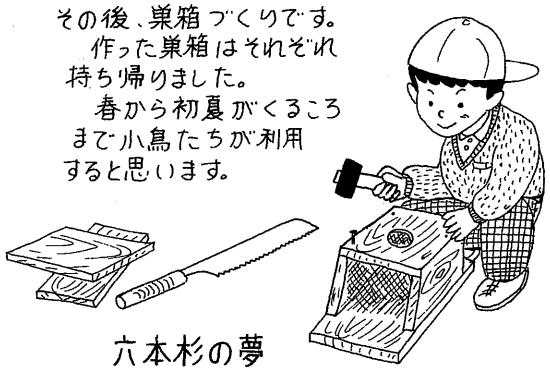
新年のコノハズク



昨年10月5日から突然保護することになりました。
生命を落としてしまうところでしたが平成5年の元日を博物館で迎えました。
元日の朝、館長がコノハズクに「おめでとう、早く元気になってネ」と言いました。

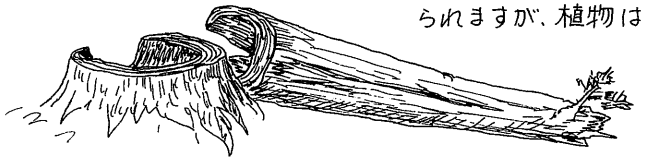
土曜日の休みは何をするか

平成5年1月9日(土)、小・中学校の休みを利用して博物館で巣箱づくりを行ないました。最初に学習その後、巣箱づくりです。
作った巣箱はそれぞれ持ち帰りました。
春から初夏がくるころまで小鳥たちが利用すると思います。

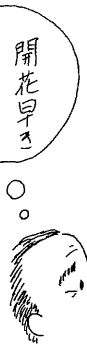


六本杉の夢

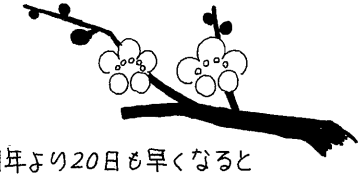
鳳来寺山頂の六本杉が伐られたのは平成4年1月28日で、約1年が過ぎました。
無惨な切り株だけ残っています。
ある夜、六本杉の夢をみました。
その夢は悲しい声で「このまま公害をつづけていたら酸性雨が降って、杉のなかまは全滅してしまう」というのです。
山の動物たちは良い環境を求めて逃げられますが、植物はそのようなことはできません。
今は自然を守る運動と実践が大事です。



梅開花前線駈け足



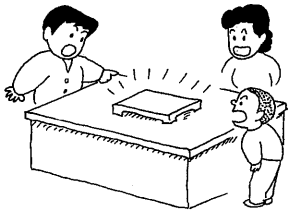
暖冬で梅の開花は例年より20日も早くなると知らせています。昔から「開花早き年は梅不作」ということわざがあります。
鳳来町特産の梅も不作になる心配があります。今年は少しでも遅く咲いてくれることを祈るばかりです。



消えたオカメカボチャ

（鳳来町一色、川合治夫さん寄贈）

昨年の秋から本館（屋外ロビー）においたところ、これを見て見学者のみんながおお笑いをしました。
オカメの顔によく似ています。
新年になって突然なくなってしまいました。
サルが食べ物に困って持っていってしまったのです。
（平成5年1月19日）



ヒヨドリの知恵

ヒヨドリは庭園樹のピラカンサの実を好んで食べますが、
それを食べる時期は寒さが厳しくなってからです。
鳳来寺山ろくでは1月末頃の大雪の前に食べつくしました。
ヒヨドリはこのことをよく知っていて行動します。

オオコノハズクの受難

（平成5年1月20日 発見者 近藤 宗さん
〃 1月27日 〃 城所真知子さん）

鳳来町愛郷 島田

この冬は気象台の予報では7年つづけての暖冬と言われていますが、暖かな日も、雪の降る日もあって暖冬の実感がしません。
オオコノハズク（フクロウ科）は季節を知っていて行動を始めました。
不幸に2羽が受難にあって死んでしまいました。

東名高速 豊川インター

スギ花粉警戒

「花粉飛散 ことしは大量……」と新聞で報道されました。
愛知県は平成5年2月2日から花粉情報を知らせています。
この時期にめいわくに思う人ばかりですが、植物的には花粉はオバナで、子孫繁栄の働きをします。
花粉がなくなれば、確かに花粉症はなくなりますが、
杉は絶えてしまいます。

石を使ったテキスト（平成5年1月26日）

— 新城市青年の家にて —

館長が「東三河の自然と環境」について講演を行ないました。参加者に配ったテキストに鳳来町産の緑泥片岩と凝灰岩の粉がはりつけてあります。
石も草や木、動物と同じように、自然の役割を果していることを話しました。
このような石のテキストを使ったのはこの講演が初めてです。

学習会の思い出 ―平成4年のあしあと―

はくぶつかんだより No24 1993.3

鳳来寺山の生きものを学ぶ

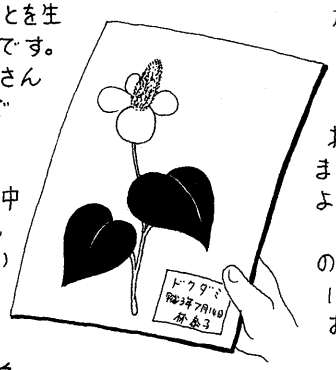
平成4年5月24日(日)
雨のち曇、87名参加

この日は
モリアオガエルにとっては楽しい1日でした。晴天で新緑の風が吹いているような日より、曇天で林の中が湿っているような日の方を喜びます。
産卵池のモリアオガエルはとても楽しそうでしたネ…

夏の植物を学ぶ（鳳来寺山ろく）

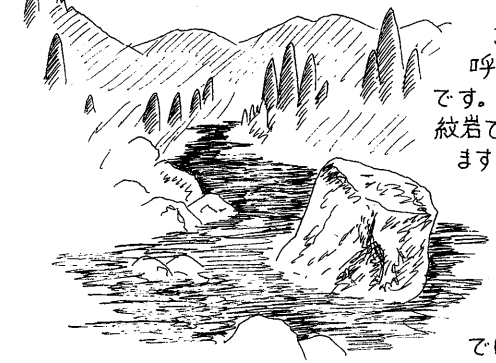
平成4年7月12日(日)晴、100名参加

学習会で学んだことを生かす工夫が一番大切です。
友の会員の林泰子さんは夏休みの自由研究で「植物押葉標本」を作りました。
標本づくりは頭の中ではよくわかっていても実際に体験してみないとよいものは作れないと思います。

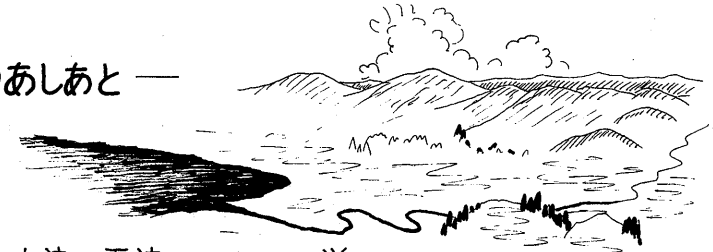


川かみのようすを学ぶ（湯谷～槙原）

平成4年6月14日(日)曇、94名参加



このあたりは「鳳来峡」と呼び全国的に有名な景勝地です。河床は白っぽい凝灰岩質流紋岩で川中いっぱいに水が流れていますが、水の中のポットホールのことは気づかなかったと思います。この日は、川岸から地形と地質を学びましたがポットホールのことまで調べるには、1日だけの学習会ではとても無理です。



川の中流・下流のようすを学ぶ（新城～豊橋）

平成4年8月2日(日)曇、48名参加

豊川の流れは約74Km.この区間を上流（鳳来町から奥の水源地）、中流（新城付近）、下流（河口近く豊橋付近）に分けます。今年は、中流から下流までの地形を学びました。

虫やクモを調べてみよう（鳳来寺山ろく）

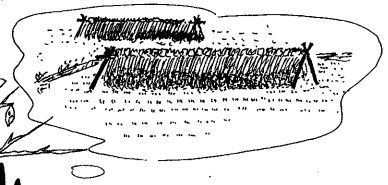
平成4年9月6日(日)曇、71名参加

秋の鳳来寺山ろくで「虫の捕蒲作戦」を行ないました。みんなで輪を作ってかこみ、虫たちを追いこみました。
どの虫も生きていくためにすばらしい知恵持っているので、逃げてしまった虫の方が多かったようです。
捕まった虫の名前や生活のしくみをノートにつけておきました。

きのこを学ぶ（鳳来寺山）

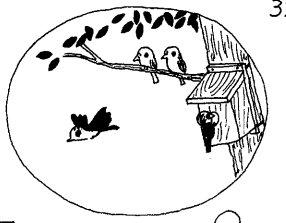
平成4年10月11日(日)曇、106名参加

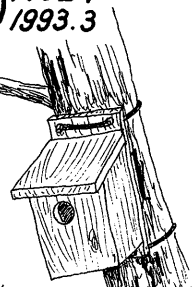
「里豊作、山不作」の意味は…
山ではきのこの発生が少なく、里の稲は豊作の年ということです。
このような年が毎年続くとは限りません。きのこの豊作年も必ず巡ってきます。今年のきのこの秋を楽しみにしましょう。



野鳥の巣箱づくり（博物館）

平成4年12月6日(日)曇時々雨
32名参加





野鳥の巣箱は冬のはじめに作ります。作ってから3～4ヶ月くらい日がたったものを鳥たちは好みます。
人間とちがってピカピカ光った新品のものよりも古いものの方がよいのです。
早めに巣箱をかけて鳥たちを迎えてあげましょう。

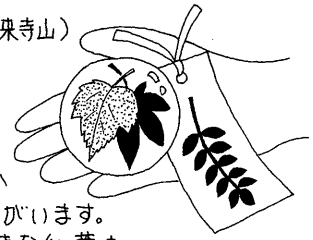
土曜休校を利用した巣箱づくり

平成5年1月9日(土)曇26名参加

土曜休校日に何をどのようにやったらよいか… これからみんなで考えたい重要な課題です。
試みに「巣箱づくり」を行ないました。

秋の紅葉を楽しむ（鳳来寺山）

平成4年11月15日(日)
曇、63名参加



鳳来寺山の紅葉は特別美しい。
紅葉は大きく赤、黄、褐色に分かれますが好きな色は人によってちがいます。
この学習会では自分の好きな紅葉を選んでカードやバッヂをたくさん作りました。

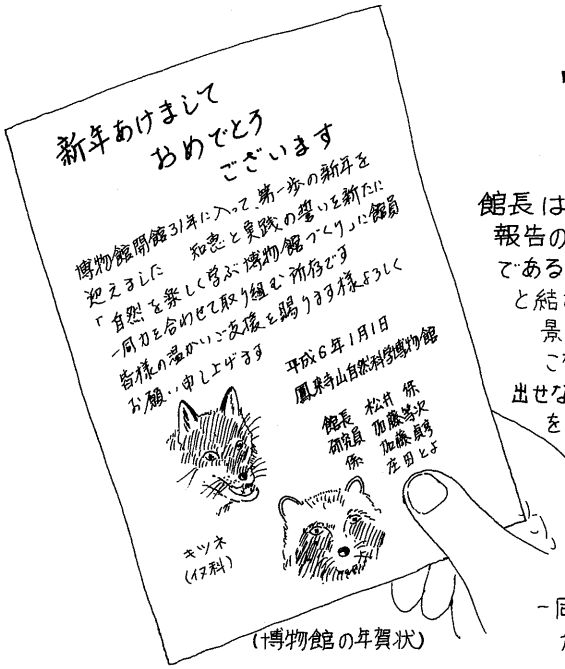
冬の鳳来寺山自然探検

平成5年2月14日(日)晴、64名参加

鳳来寺山の裏山は大きな谷間になっています。
大津谷、分野谷、槙原本谷などがありますが、今年は槙原本谷のカラ沢沿の楽しい観察でした。
その頃、隣の大津谷方面、県民の森一帯で山火事が発生し、2日間燃えつづける事件がありびっくりしました。

―鳳来寺山自然科学博物館―

年賀状と自然と博物館



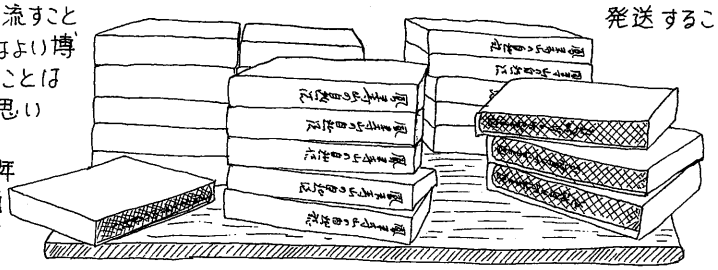
(博物館の年賀状)

知恵と実践の新年

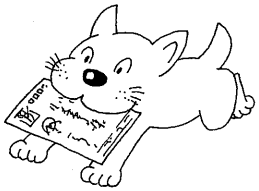
館長は開館30周年式典(平成5年11月11日)の経過報告のおわりで、これから先は「知恵と実践の時代である…心をひきしめて決意を誓います。」と結びました。

景気のよい時代は、早くはやってこないと思います。知恵を出せなかったり、汗を流すことを惜しんでいてはよい博物館にすることはできないと思います。

この新年は、館員一同力を合わせてがんばります。



博物館事務第1号



開館30周年を記念して「鳳来寺山の自然誌」を発行しました。B5版732頁の大冊で、ずしりと重く感じます。新年第1号の博物館事務は、この記念誌を予約者に発送することでした。

開館30年の歩み

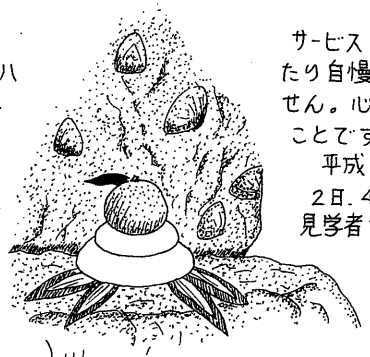
講堂で「30年の歩み」展を行っています。多年の出来事を整理してみると、1回だけでは展示できないほどの足あとが残っていることに気づきます。予算も職員も特別少なかった事情から、汗と努力のあしあとと言えます。

うれしかった年賀状

北海道旭川市旭山動物園の小菅正夫さんから館長にとどいた年賀状を読むと、「コノハズクの繁殖に成功しました。13年がかりの出来事です。」と添え書がしてありました。

これは日本で初めてのことです。旭山動物園の多年の努力に頭が下がりました。

館長の新年のサービス



サービスとは無理したり、我慢したり自慢して行うことではありません。心から自由な気持ちで行なうことです。

平成6年1月1日、46人、2日、49人、3日、63人の見学者を迎えました。

傘スギの繁栄

平成5年12月30日に新しいしめ縄が飾られました。いつまでも無事でいて欲しいと思います。

館長は東愛知新聞(12月23、24、25日)に「冬の傘杉と自然」と題して執筆しました。

傘杉がいつまでも無事で生長をつづけてくれることを願って書いたのです。

新春の使者

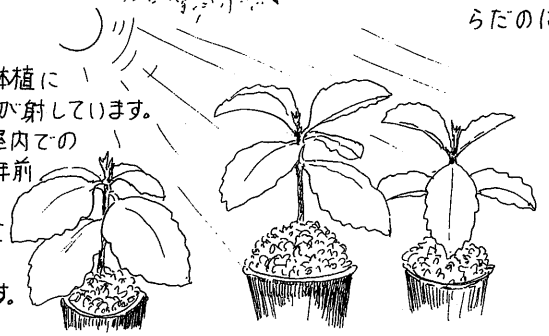
(平成6年1月7日)

博物館事務室のガラス窓にアカタテハがとまって翅を休めました。季節の春はこれからだのに休息することなく行動しています。チョウのような気持ちでがんばりましょう。

春の風

博物館前の音為川沿いの在来梅は鳳来寺山麓で花の咲くのが早い。今年1月6日に咲きました。去年も同じ日です。春の風が梅の花の香りを運んでくれるのもあと数日です。

春の光

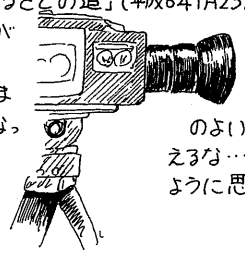


セイロンベンケイソウの鉢植にさんさんと春の日の光が射しています。寒さに弱い性質から室内での冬越しです。館長が3年前に南西列島、竹富島から持ちかえった2枚の葉からふやしたものです。

コノハズクの目

中京テレビ「トキメキふるさとの道」(平成6年1月23日、7:00放送)この放送にコノハズクがでてきます。

体調をくずしていましたが、やっと元気になったところです。



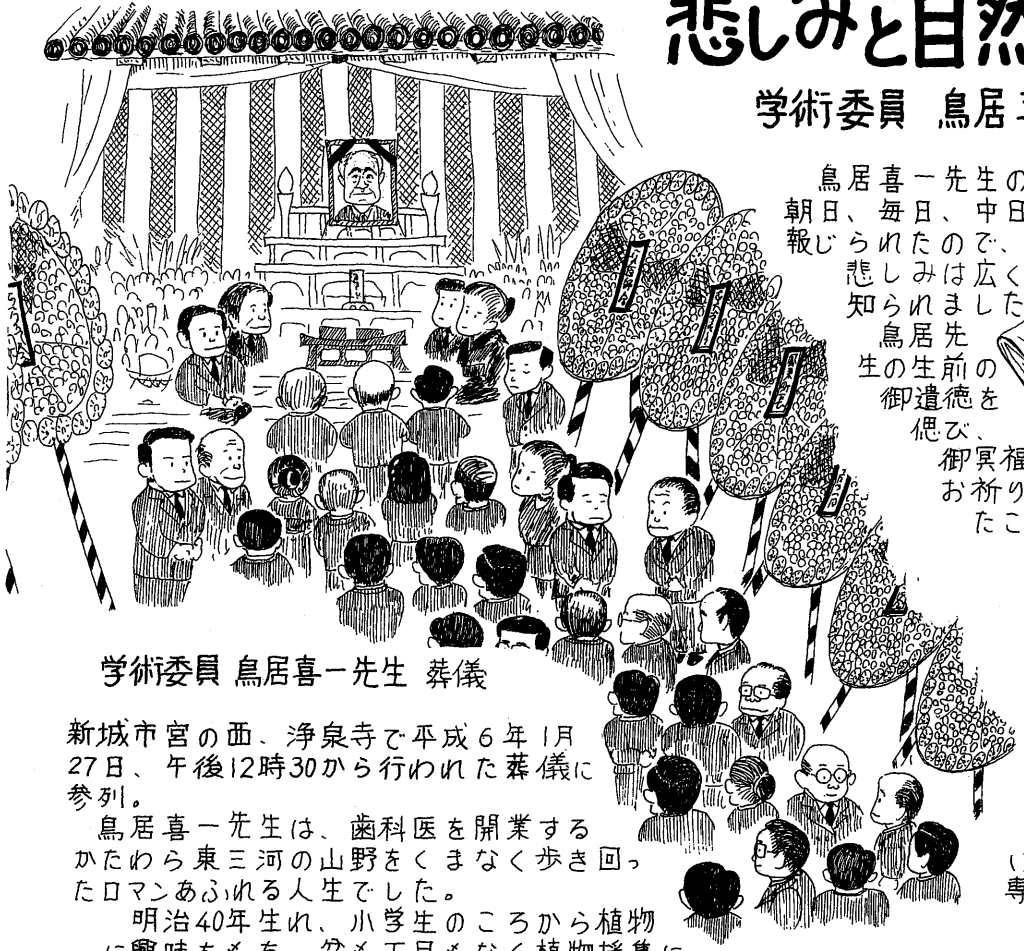
目をじっと見ていると「人間の都合のよいことばかり考えるな…」と抗議しているように思いました。

はくぶつかんだより
1994.1　No.25

鳳来寺山自然科学博物館

悲しみと自然と博物館

学術委員 鳥居喜一先生を偲ぶ



学術委員 鳥居喜一先生 葬儀

鳥居喜一先生の訃報は平成6年1月27日の朝日、毎日、中日、東海日々、東愛知新聞で報じられたので、この悲しみは広く知られました。鳥居先生の生前の御遺徳を偲び、御冥福をお祈りされたことでしょう。

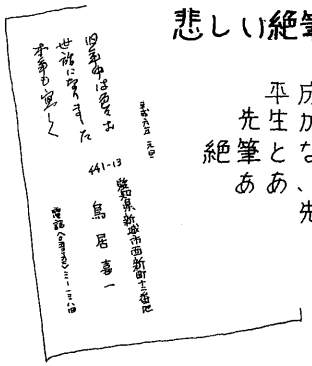
新城市宮の西、浄泉寺で平成6年1月27日、午後12時30から行われた葬儀に参列。

鳥居喜一先生は、歯科医を開業するかたわら東三河の山野をくまなく歩き回ったロマンあふれる人生でした。

明治40年生れ、小学生のころから植物に興味をもち、盆も正月もなく植物採集に没頭しました。発見した新種は、ミカワバイケイソウ、ダンシダ、ミカワオオイトスゲ‥‥など7種。この地方で初めてみつけた分布上の新発見は60種を数えます。

葬儀参列者の一人が「明治生れの偉大な火がまたひとつ消えてしまった…」と悲しみながら合掌されたのが印象に残りました。

悲しい絶筆



平成6年元旦に鳥居喜一先生から館長宛の年賀状が絶筆となってしまいました。

ああ、人生は無常です‥‥

先生は黄泉の世界に旅たたれて、再び帰られることはありません。

鳥居先生安らかに（合掌）

鳥居蔵書

生前、鳥居先生が愛読されていた自然科学書（単行本、専門誌）が寄贈されています。

自然専門雑誌には創刊号からのものも多く貴重な財産になっています。

図書室の中に入ると先生の汗のにおいがただよっています。

鳳来寺山概説

通巻第七集は鳥居先生執筆による「植物目録」です。小冊子であっても鳳来寺山、乳岩鳳来町一円の山野をくまなく歩いて調査されたことは何百日に及びます。先生の汗の結晶で後世に不滅です。

鳥居喜一 植物標本

鳥居喜一氏（とりい きいち＝鳳来町鳳来寺山自然科学博物館学術委員、新城市政功労者）26日午前5時4分、肺炎のため新城市の病院で死去。82歳。同市出身。自宅は同市西新町12。葬儀・告別式は27日午後零時30分から、同市宮ノ西7の浄泉寺で。喪主は長男栄二（えいじ）さん。

国内で資料がそしい大正末期ー第二次大戦時に植物標本を収集するなど、植物研究者として著名。

中日新聞より

東三河地方で採集した主な植物標本を寄贈され、資料庫に保存されています。その数は2,456種、30,000点で、当時宇連ダム、新豊根ダムの湖底に自生していた植物の標本も見ることができます。

セツブンソウの花

重弁のセツブンソウ

平成6年2月3日、博物館でセツブンソウ（鉢植）の花が咲きました。鳥居喜一先生は「東三河の自然と人を語る」（館報18号）に"東三河の植物採集の思い出"を執筆されたとき、重弁のセツブンソウの写真を紹介されています。

どこに自生していたのか？くわしい説明は書いてありません‥‥。先生の亡きいまも、どこかで無事に生き残っていると思います。

励まされた会話

鳥居先生に大変励まされました。「松井さん（館長）になってからすばらしい博物館になった」

「松井さんがやめて（退職）しまったら博物館がつぶれてしまう…がんばってくださいよ…」

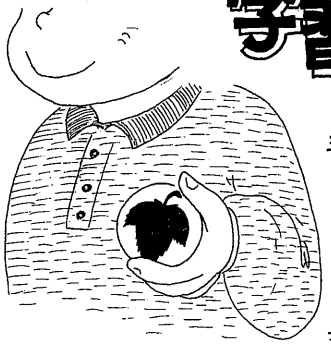
鳥居先生の温かい人柄に頭がさがり感謝の心を忘れることはできません。

はくぶつかんだより No.26 1994.2

鳳来寺山自然科学博物館

学習会の思い出

― 平成5年のあしあと ―



手づくり紅葉カンバッヂ

（平成5年11月14日・日・80名☼
：秋の紅葉を楽しむ）

この学習会で学んだ樹木は35種で、紅葉、黄葉、褐葉とさまざまで変っています。
いちばん美しい紅葉でカンバッヂをつくる…黄金でつくったペンダントよりすばらしいと思いました。

楽しかった海と火山時代のはなし

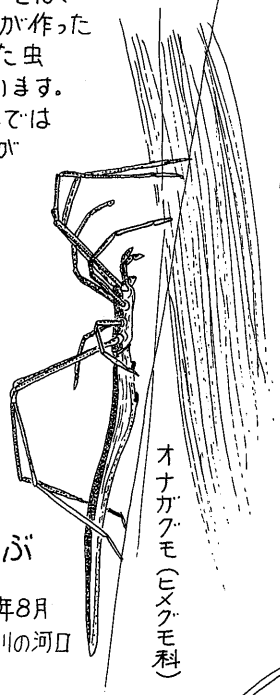
（平成5年6月6日・日・85名☼
：鳳来寺山地学ハイキング）

鳳来寺山は大昔、深い海の底にありました。また、はげしい火山活動もありましたが自然の景色から見ただけではその成り立ちまで知ることはできませんでした。
専門の先生から聞いた鳳来寺山が誕生した話はとても楽しかったです。

頭のいいクモを発見

（平成5年8月29日・日・73名・☼
：草はらの虫やクモを調べてみよう）

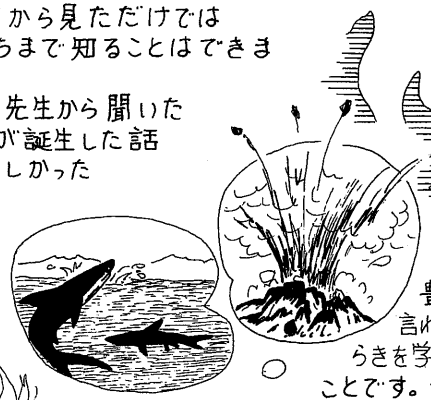
オナガグモは、ほかのクモが作った網にかかった虫を食べてしまいます。
人間の世界では盗人のしわざですが、オナガグモにとっては生きていくための知恵なのです。
弱肉強食の自然ですが、知恵を使わないものは滅びてしまいます。



オナガグモ（ヒメグモ科）

豊川を学ぶ

（平成5年8月11日・日・51名・☼：豊川の河口から上流まで）



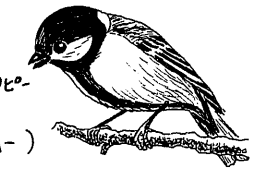
豊川の長さは74kmで、生活の大動脈と言われる川ですから川のはたらきを学ぶことは大切なことです。今回は河口（下流）から上流へ…バスに乗っての学習でした。下流の石は小粒で砂と泥、中流はにぎりこぶし位で丸い形が多く、上流は大きな石がごろごろし角ばっています。
学ぶことがたくさんあって時間がいくらあっても足らないくらいでした。

カナヅチの音

（平成5年12月15日・日・61名・☼
：エサ台と巣箱を作ろう）

鳳来寺山の谷間にカナヅチの音がひびいています。
これは巣箱づくりの音です。自分で考え自分の力で完成させた巣箱づくりの体験はいつまでも忘れないと思います。

いろいろな鳥の鳴き声を聞いたよ



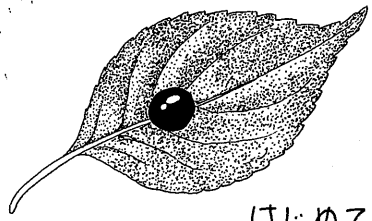
（平成5年5月23日・日・83名・☼
鳳来寺山の生きものを学ぶ ―山頂から博物館へ―）

この日は青葉、若葉の鳳来寺山から聞えてくる鳥の声を聞きました。センダイムシクイ（チヨビー，チヨチヨチョビー：焼酎一杯グィーッ）、アオゲラ（ピョー）、ヤブサメ（シシシシ…）、ヒヨドリ、シジュウカラなどの鳴き声がよくわかりました。

おもしろいハナイカダのしくみ

（平成5年7月11日・日・70名・☼
：夏の植物を学ぶ）

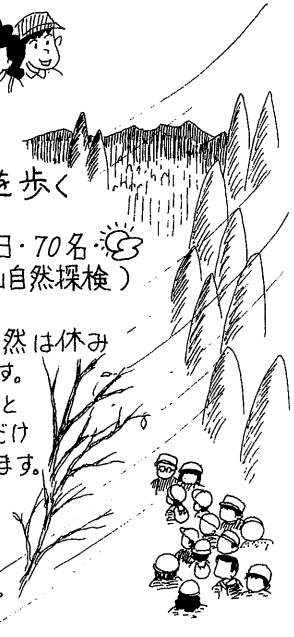
ハナイカダは葉の中央脈の上に淡緑色の花がつき、黒緑色の実がなります。
葉をとって水に浮べてみると花が葉のイカダにのっているようですね…。



北風の吹く中を歩く

（平成6年2月13日・日・70名・☼
：冬の鳳来寺山自然探検）

冬の季節でも自然は休みなしで活動しています。
「さむい、冷たい…」と言って怠けていたらそれだけ自然の真実を失ってしまいます。
今年は特別寒い年でしたが、林道を北風に吹かれながら、みんなが元気を出してがんばりました。



はじめて見つけたよ…

（平成5年10月9日・土・98名・☼
：きのこを学ぶ）

きのこがとれる当り年と予想していましたがこの学習会ではあまりとれませんでした。
これは誰かが先にとってしまったのではなくほんとうになかったのです。でも珍しいきのこも見つかりました。
きのこ展の会場には、毒きのこ32種を含む164種が展示されてよい勉強になりました。

クリイロイグチ（イグチ科）

はくぶつかんだより No.27 1994.3

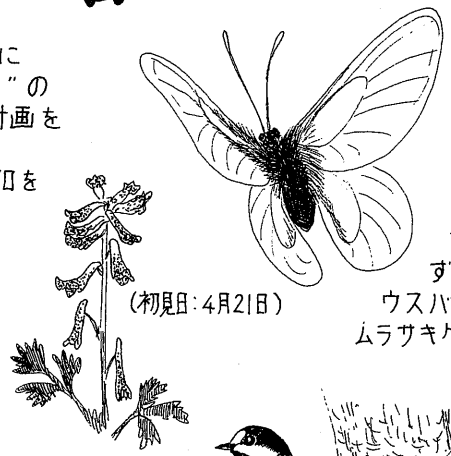
春の自然と博物館

学習会始まる

「広報ほうらい」(5月号)に"よい汗をかいてみよう…"のみだしで博物館行事計画をお知らせしました。

一人でも多くの参加を願っています。

学習会に参加して楽しい思い出を残しましょう。



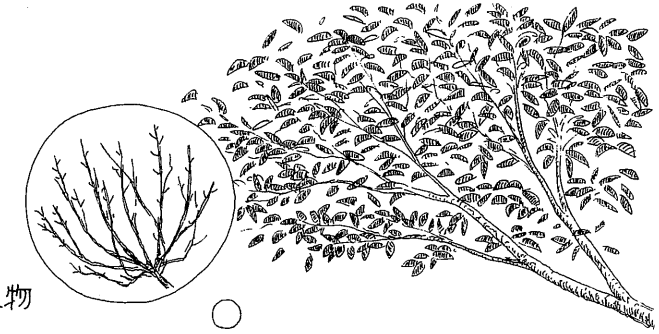
(初見日：4月21日)

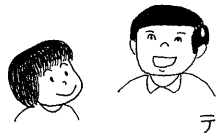
ウスバシロチョウの保護

このチョウは鳳来寺山ろくの限られたところで生息し、春の風物詩になっています。

幼虫の食草はムラサキケマン(ケシ科)ですが、この草の大切さをあまり理解されず、一般では雑草あつかいです。

ウスバシロチョウ保護のために、みんなでムラサキケマンを残してやりたいと思います。





生命の色

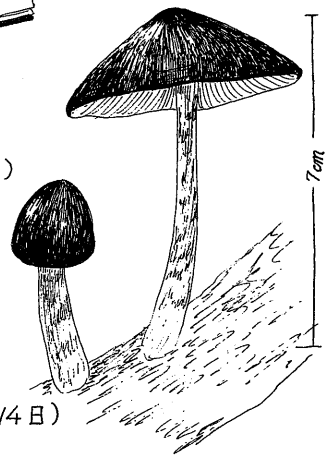
サクラの大敵

テングス病にかかると寿命がちぢまってしまいます。

鳳来寺山ろくのサクラのほとんどがこの病気にかかっています。

博物館では、被害枝をとり除いて(平成6年3月30日、剪除)健康を守ってやります。健康な新緑のサクラの樹冠は、生命の色を見るようです。

(平成6年4月13日)

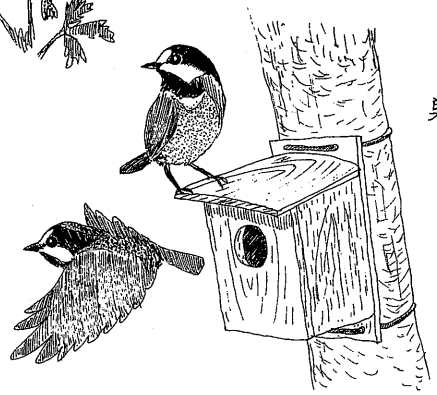


ウラベニガサ

(ウラベニガサ科)

きのこは春夏秋冬のいずれの季節でも発生します。

新緑の山道を歩いて自然観察中にみつかりました。



緑の風(平成6年4月28日)

巣箱づくり学習会に作ってかけた巣箱から、ヤマガラが巣立っていくところを見かけました。

ヒナはとても元気です。

空をながめながら緑の風に吹かれて楽しくてたまらないといった感じです。

がんばろうヤマユリ

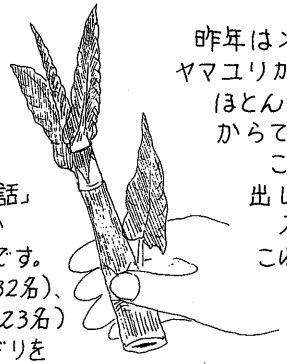
(平成6年1月26・27日播種)

昨年は冷害、多雨の年で、実生から育成していたヤマユリが、すっかりまいってしまいました。

ほとんどの茎と葉が枯れて、全滅してしまったからです。

ことしの春になって、いっせいに芽を出しました。生き残っていたのです。

花の咲く日はまだまだこれからです。



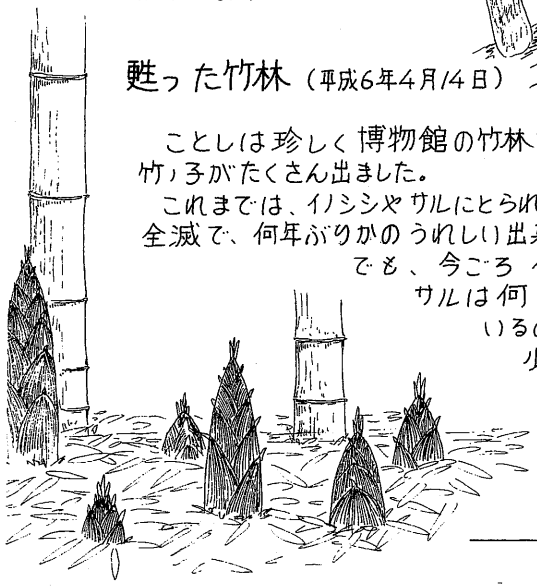
甦った竹林(平成6年4月14日)

ことしは珍しく博物館の竹林で竹の子がたくさん出ました。

これまでは、イノシシやサルにとられて全滅で、何年ぶりかのうれしい出来事です。

でも、今ごろイノシシやサルは何を食べているのかな…少々心配に思います。

餌がなかったら生きていけないからです。



困った…タラの芽の害虫

アブラムシがトゲナシタラの芽に発生しました。

農薬を使って駆除すれば食べられません。

このまま放っておけば大発生すると思います。

こまった問題です。

イタドリの教材

館長が行なう「自然講話」は、「右手と左手の自然」か「実物こそ師」のどちらかです。

ことしも西春中学校(132名)、白木中(140名)、天神中(123名)に行った講話では、イタドリを選びました。

この地方の昔の子供はよく食べた植物です。

今でも食べられるのに、食べる者はいませんが、昔の体験を教材に生かしたのです。

ぼくらつかんだより No.28 1994.4

―― 鳳来寺山自然科学博物館 ――

初夏の自然と博物館

はくぶつかんだより No.29 1994.6

モリアオガエルの案内

博物館近くの丸山修さん宅前の防火水槽横のムクゲの木にモリアオガエルが毎年産卵します。

鳳来寺表参道を通る人たちが立ち止って観察しています。

熱心な人たちは博物館に来て、質問されました。

モリアオガエルの季節

（平成6年6月10日）

ことしの梅雨入りは6月9日からです。この梅雨の中にモリアオガエルが産卵しますが、日中の産卵はめったにありません。

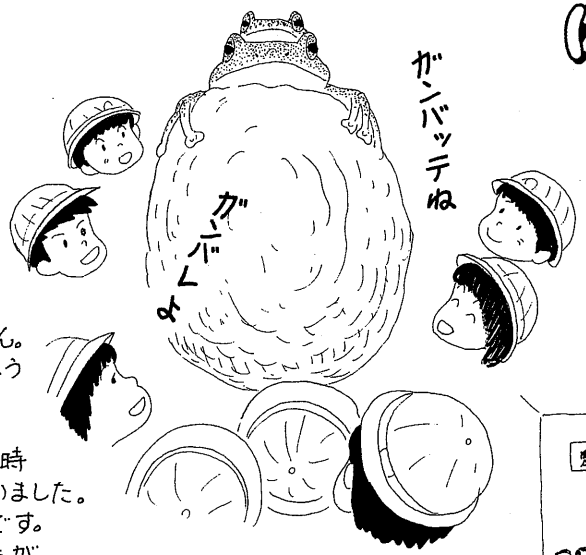
カエルは皮ふが乾いてしまうと生きられないからです。

博物館飼育観察池で6月10日午前9時30分から11時50分まで日中産卵を行ないました。

ここでは初めての出来事です。

この日は鳳来寺小学校の生徒が来館して観察しました。

このようなチャンスは二度とないと思います。



愛知県博物館協会設立30周年記念式典

（平成6年6月6日、電気文化会館）

愛知県下の博物館の数は114館です。

これらの館が集って「愛知県博物館協会」を結成しています。

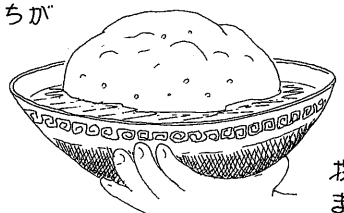
30周年記念式典で館長が開会のあいさつを行ないました。

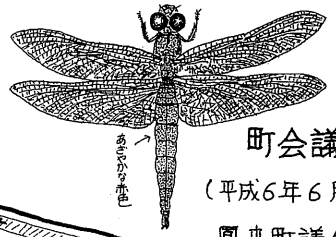
名誉に思います。

シャグマアミガサタケ

（ノボリリュウ科）

鳳来寺山の自然探索中に見つけました。図カンでは見ても実物はこれが初めてです。





町会議員のトンボ相談

（平成6年6月10日、鳳来町塩瀬・知幸部産）

鳳来町議会議員の清水幸雄さんが、トンボを持って来館されました。名前がわからなかったからです。調べてみるとショウジョウトンボ（トンボ科）のオスのほうでした。

自然に関心をもってくれたことがとてもうれしかったです。

これは なにかな…

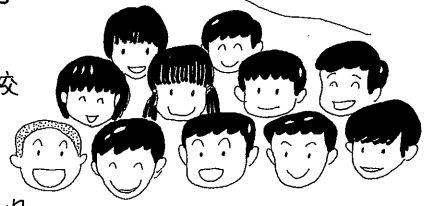
（平成6年6月1日）

館長が東郷東小学校生徒に自然講話を行ないました。

モリアオガエルの卵塊をドンブリの中に入れ、手にもって話をすすめたのでとても面白い話でした。

白いふんわりした卵塊は、ドンブリに入っているとまるでおいしい食べ物のようです。

いまは、このモリアオガエルは無事にオタマジャクシに育って飼育水槽で泳いでいます。



環境破壊

（平成6年5月2日）

博物館近くの杉林が都合で皆伐されてしまいました。そのあとは砂漠に似て荒涼とした茶褐色の自然にかわってしまいました。この林でニホンカモシカが休息していたのです。

ときどき高い所から博物館の方をジッと見おろしています。気のせいかその姿は淋しく感じられました。

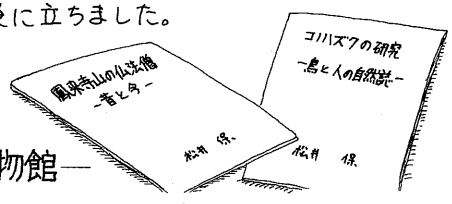
環境破壊を悲しんでいると思います。

鳴かせてみよう仏法僧

（平成6年6月20日、午後11時15分NHK第1放送）

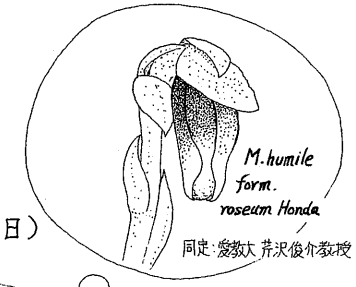
NHK文化放送研究所（東京）の研究員が来館され、仏法僧（コノハズク）について相談を受けました。放送70周年を記念しての放送です。

館長がまとめた研究資料が大変役に立ちました。



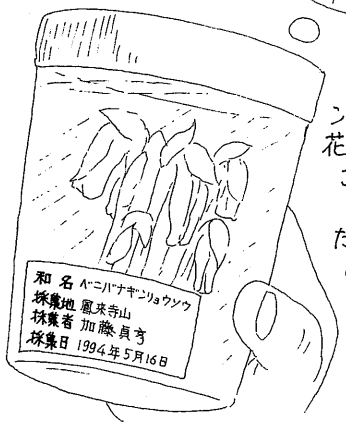
新発見

（平成6年5月16日）



鳳来寺山でベニバナギンリョウソウを見つけました。花がピンクで変っています。これは新発見です。（県内で）

調査標本として1株だけ採集して保存しました。山中でいつまでも無事に生存していくことを祈りました。



—鳳来寺山自然科学博物館—

猛暑と自然と博物館

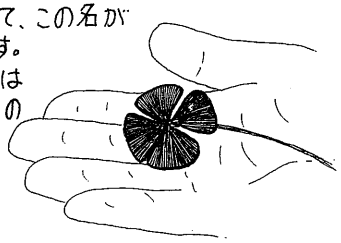
はくぶつかんだより No.30 1994.9

国体歓迎

猛暑の日中は草花にとってはあわれです。灌水(カンスイ)は朝と夕方の2回欠かせませんでした。赤、白、黄と色とりどりの花は見学者の目を楽しませてくれました。

5分間の教材

デンジソウ(デンジソウ科)は湿りを好む植物です。摘みとり、手のひらにのせるとすぐに萎れてしまいます。デンジソウをよく見ると「田」という漢字に似ていて、この名があります。館長は夏の自然講話の教材によく使いますが、見学者が集合してから走って採集していました。

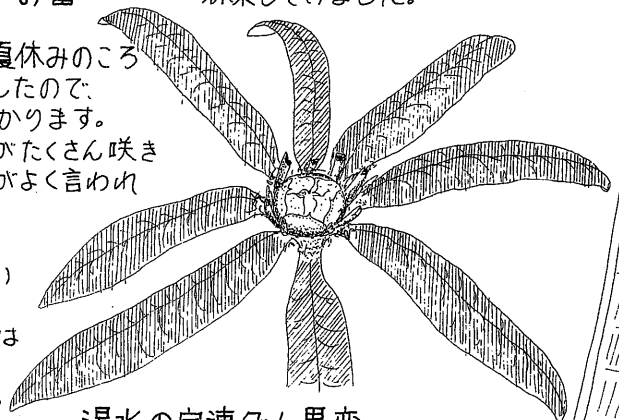


水生昆虫に恩恵

博物館前の谷川(音為川)の川巾いっぱいに雑草が生い茂って、その草の下をわずかに水が流れています。この川に水生昆虫がたくさんいますが、この雑草のおかげで水面が日陰になって強い日射しをさえぎり水温の上昇をおさえてくれます。

8月28日、ここで「川の生きものを学ぶ」学習会を行ないました。カワトンボ、トビケラ、ヘビトンボ、カワゲラ、ナガレトビケラなどに出会え、みんな大喜びです。

ホソバシャクナゲの蕾



来年に咲く蕾は夏休みのころ(8月中旬)にできましたので、来年のことが凡そわかります。

「来年は美しい花がたくさん咲きますよ…」と館長がよく言われます。

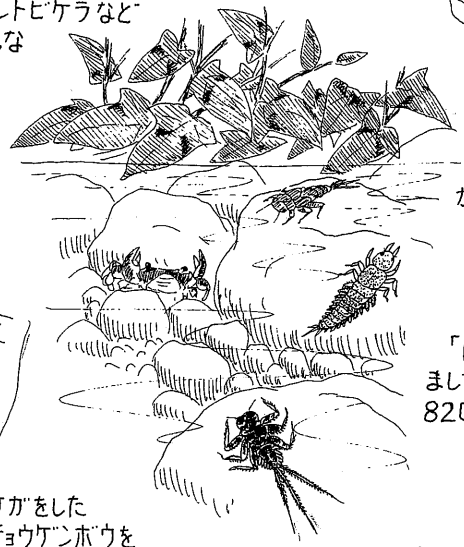
気象研究者は、杉花粉も来年は多いと言っています。暑かった夏の影響は翌年にまでつづいているようです。

チョウゲンボウの保護

(平成6年9月10日)

ケガをしたチョウゲンボウを鳳来町愛郷の城所貞二さんからあずかりました。はじめは暗い所に姿をかくしたままで餌を食べませんでした。2日目の夕方から餌を食べました。3日目になるとすっかり元気になって室内を飛びまわりました。このとき放鳥してもよかったのですが激しく雨が降っていたので館長が翌日放鳥することに決めました。

放鳥すると羽をいっぱいに広げて鳳来寺山へ飛んでいきました。



はやく大きくなってネ

(平成6年8月4日)

暑い夏の日の夜半、モリアオガエルが博物館観察池で産卵しました。こんな季節はずれの出来事ははじめてです。

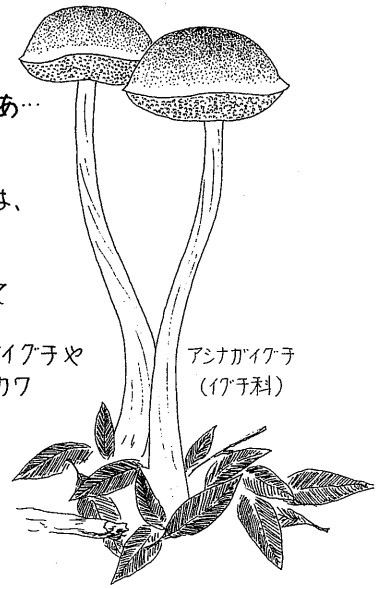
飼育(保護)しているオタマジャクシに見学者のみなさんが「はやく大きくなってネ…」とはげましてくれました。無事に育ったのは82匹。9月16日の朝方、池にかえしてやりました。

涼しいなあ… 楽しいなあ…

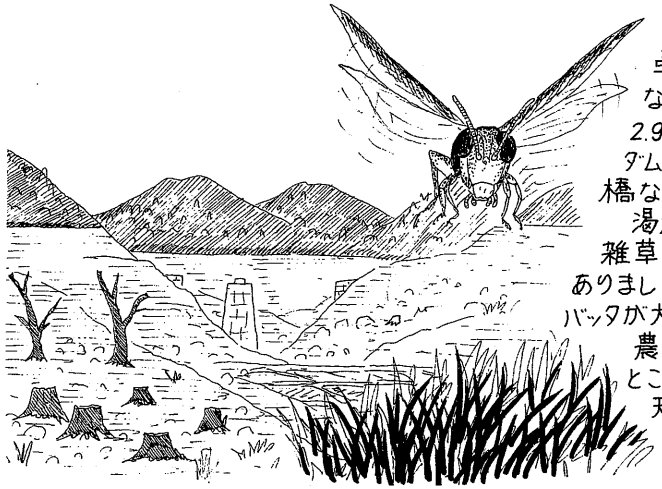
(平成6年8月31日)

夏のシイやコナラ林の中は、暑い日射しがさえぎられて落ち葉の下は湿っています。木と木の間に風が吹いて涼しく感じます。

山を歩いているとアシナガイグチやナガエノウラベニイグチ、クリカワヤシャイグチに出会いました。暑さ知らずの山の自然を満喫して、楽しくてたまらないといったムードです。



渇水の宇連ダム異変



夏の過少降雨で宇連ダムは空っぽになりました。貯水率は2.9%(9月16日現在)に下がり、ダム建設前にあった田畑のあと、橋などが現れています。

渇水期間が長かったために雑草が生い茂っているところもありました。そこにイナゴやトノサマバッタが大繁殖していて驚きました。農薬を散布したり、草刈はしないところで虫たちにとっては、天極だったと思います。

―― 鳳来寺山自然科学博物館 ――